第52回沖縄県振興審議会

日時：平成21年３月27日（金）

AM10:00～12:02

場所：沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ

アイランドブリーズ

（午前10時　開会）

１．開会

○司会　　皆様、おはようございます。ただいまから第52回沖縄県振興審議会を開催いたします。

本日は、年度末のお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

議事に入ります前に、新しい委員の紹介をさせていただきます。

沖縄県町村議会議長会 会長の神谷信吉委員が会長職を退きまして、新たに前田善輝読谷村議会 議長が就任されております。それに伴いまして職指定でございますので、前田委員が新しく審議会の委員に就任されております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本審議会の開会の要件でございます委員の出欠状況につきましてご報告を申し上げます。

当審議会の委員の定数は24名となっておりますけれども、本日は過半数を超える16名の委員が出席しておられますので、審議会開会の要件を満たしていることをご報告申し上げます。

続きまして、配付しております資料のご確認をお願いいたします。資料１から資料６までございまして、あとは参考資料として地域フォーラムの概要をお付けしてございます。ご確認をよろしくお願いいたします。

それでは、平会長に議事進行をお願いいたします。

○平会長　　おはようございます。平です。

前回51回が９月11日で、半年ぶりの開会になりました。しかしながら、この間に総合部会では精力的に会合を重ねております。そして、本日の資料にもありますように、６地区での地域フォーラムも開催されておりまして、特に宮古島市、石垣市のほうには副会長、それから部会長の富川先生が学長職という激務の間、直接お出かけになったということで感謝申し上げます。私もそれぞれの会合にご案内いただいていますが、残念ながら日程調整がうまくいかなくて、参加できないでおります。

それでは座らせていただいて、早速議事に入らせていただきます。

資料等は皆さん特によろしいですか。

それから、新しい委員の前田委員はきょうはご欠席ですか。

○事務局（嵩原副参事）　はい。

○平会長　それではまた出席のときにご挨拶をお願いしたいと思います。

それでは、まず議事の最初でありますが、総合部会での審議状況・経過等につきまして、部会長の富川先生にお願いしたいと思います。

富川先生お願いします。

２．沖縄21世紀ビジョン構成案等について

○富川副会長　総合部会についてご報告申し上げます。

ちょっと資料が断片的になりまして申しわけないんですが、あとで事務局で詳しい説明があるかと思いますので、私のほうでは基本的な要点を絞ったところでご報告を申し上げたいと思います。

（パワーポイント）

釈迦に説法で重複するところもあるのですが、簡単に総合部会21世紀ビジョンの意味も踏まえながらご説明を申し上げます。

申すまでもなく、社会の変化が非常に激しくて、そういう時代には過去の踏襲では、10年先、20年先の展望は難しかろうということで、あるべき沖縄、そういったものをやっていくことが大事であるということになっているかと思います。

それから、これまできました沖縄振興計画、それから振興開発計画の３本、それから現在進行中の沖縄振興計画等々がありまして、それとの関係性も見極めながらこの21世紀ビジョンをつくらなければいけないということになるかと思います。たくさんの課題等々も課されているかと思いますが、それとの関係性も含めて議論しなくてはいけないということになるかと思います。

先ほども申し上げましたように、変化が激しい時代には、あるべき沖縄、ありたい沖縄というものを先に描いて、現実のベクトルが他の方向に行くならば、それを修正するという意味合いがあるということで、今般沖縄でも21世紀ビジョンをつくろうということになっているかと思います。「21世紀ビジョン」という言葉は、ほかの部局間と国の官庁とか、いろんなところでそういうビジョンが描かれているのもそのためかと思っております。

いきなり具体的な話になるのですが、県の事務局のまとめたこの21世紀ビジョンを議論

するにあたって、基本的なキーワードと申しますか、それをまとめております。総合部会では、それをたたき台にしまして、キーワードで足りないのがあればぜひ出していただきたいということで議論を進めております。

認識すべき課題としまして、少子高齢化・人口減少ですね。それから、地方分権・道州制、それから国際化・アジアとの交流、環境問題の深刻化、地域社会の変化、安全安心な暮らしの確保、基地の跡地利用の有効利用等々が、一番大きな課題として挙げられているので、それをキーワードとして挙げて、それをもとに議論をしております。

これに取り組まなければ、厳しい未来が待っているということになるということで、ホームページではこういうふうに表現をしております。

これは、すでにご存じかと思うんですが、県のホームページに載っているイメージとして、こんなことを議論しますというのがわかりやすくアニメーションで提示されてございます。

21世紀ビジョンのイメージをどういうふうに絞り込んでいくかというときに、全くキーワードがないとなかなか絞り込みにくい部分もあったんですが、県のほうではイメージを概ね５つほど掲げております。

美しい自然と沖縄らしい風景に囲まれた島。

歴史、伝統・文化を尊重する安全で安心な島。

希望と活力にあふれる豊かな島。

世界に開かれた交流と共生の島。

多様な個性と能力が発揮できる島。

ということで、これはあくまでもたたき台ということで事務局から言われておりますが、それをもとに絞り込んで、そこに意味といいますか、インプリケーション(timplication:含意)を組み込んでいかないといけないという業務があるかと思います。

現在議論されていることのまとめとして、事務局が残しておりますのは、先ほど言ったキーワードをもとに地域社会はこれから残すべきもの、変えていくべきものという大きな分類をしまして、それをイメージとしてまとめております。

残すべきものとしましては、地域社会が担ってきた共助・共生等の機能、安全・安心な暮らし、独特の歴史、伝統・文化や誇れる県民性・長寿等、多様性に富む豊かな自然環境。これらは残すべきものとして、今のところ挙げられております。

変えていくべきものとしまして、人口減少局面における経済社会の姿。これは当然人口

減少に対して、どう適応するかということだと思います。それから、アジア・太平洋地域との交流における沖縄の発展。かねてから言われていますアジアのダイナミズムへの組み込みとかどういうふうな連携の仕方をするかということもこれに含まれているかと思います。世界規模の問題解決に向けた沖縄の役割、今後のまちづくりのあり方、将来の沖縄に必要な人材の育成、基地返還跡地の有効活用、2030年の在沖米軍の状況、離島振興と国境離島を含む広大な海域の位置づけ。こういったものがキーワードとして並べている段階にあります。

最初に申し上げておりますが、議論すべきキーワードをもとにいろいろ議論しておりますが、まだまだ残念ながらまとめるまでには至っておりませんが、断片的にいくつかのキーワードについて議論をこれまで積み重ねてきたということになるかと思います。

それから、将来像の実現に向けた取り組みの基本方向としましては、全部ご紹介するまでもないと思うんですが、地域の人材の有効利用や住民の協働による地域づくりを通して、世代間の交流を深めコミュニティの再生を図るとか、あるいは社会保障、保健医療システム等再設計により保健医療・福祉の充実を図るということで、個別的な議論が出てきております。これにつきましては、後でどういう具体的な議論があったかについては、事務局のほうで詳しく説明があるかと思いますので、ここでは割愛させていただきたいと思います。

続きまして、その議論をするときに一つのまとめ方なんですが、先ほど申し上げたキーワードをまとめて、それを分野ごとにというキーワードと、それから将来像というキーワードをマトリックスにして示してございます。

分野というのは、少子高齢化、地方分権と道州制、それからアジアの経済発展とグローバル化、地域社会と安全・安心、食、人材育成、経済・産業、環境とエネルギー、離島、在沖米軍基地等というふうに、これを分野として提示してございます。

ビジョンの理念としては、先ほどの５つ申し上げた、美しい自然と沖縄らしい風景に囲まれた島、歴史、伝統・文化を尊重する安全・安心な島、希望と活力にあふれる豊かな島、世界に開かれた交流と共生の島、多様な個性と能力が発揮できる島という形で、分野とビジョンのキーワードを組み合わせたマトリックスを用意して、そこで議論をやるということになってきております。

つまり、あるべき沖縄、ありたい沖縄というのを決めていくわけですが、やはり現実の課題というのがありまして、それとの関係性をしかと見極めながらやっていかないと、と

もすれば空理空論になってしまうというところがあるものですから、やはりありたい沖縄は自在に語っていただくのは結構なんですが、それと現実の問題との関係性をしかと捉えるという意味でマトリックスを用意しまして、それにのっとって議論するということになっております。

あとで、これまでの経緯につきましては、詳しい説明が事務方からあると思うんですが、私、司会をしていながら、ちょっと私の責任も重大だと思うんですが、いくつかの課題があるように感じております。

まず、県はいろんなところから意見を聴取しまして、それこそ中学生・高校生も含めて離島も、ありとあらゆるところで意見聴取をしてまいりました。そのことは大変いいことだと思うのですが、問題はこの出てきた意見をどういうふうにまとめ上げてビジョンに落とし込むかということだと思います。ビジョンに落とし込むためには、現実の課題との関係性とか時代を読む洞察力、科学的な知識や理論的考察のもとにまとめられるべきであると考えております。

それは言うまでもなく、他のビジョンを見てもおわかりになりますように、かなり突っ込んだ洞察力のもとに書かれているかと思います。

しかし、この総合部会では、この１枚きりの私の総合部会の課題ということでペーパーも出てきているかと思いますが、上位にある21世紀ビジョンというのは、これから考えていく基本計画の上位になっているわけで、基本構想になっております。つまり大きく言えば、これからの沖縄を決する非常に重要なコンセプトになるというふうに私は理解しております。これまで振興開発計画とか振興計画も議論してきたんですが、相当の数のスタッフが専門家を集めていろんな議論をしてまいりました。私は総合部会でもうちょっとたくさんの専門家を入れたらどうかという考えを持っていたんですが、これは意見を聞いてビジョンだからいいという形で走っているわけですが、若干問題があるのは、なかなか洞察力のある議論が出てこないというのがちょっと残念に思っております。

総合部会でいろんな方の意見を聞くというのは、例えばＰＩという手法がありますが、ある案を県なり国が出すと。このことについて本当にどう思われますかという案をもとに意見を述べるというが普通のＰＩだというふうに感じております。ところが、この21世紀ビジョンというのは、１から全部聞いて自分たちでつくろうと、これまでの振興開発計画とは違って、シンクタンクに頼ったものではなくて、自らの沖縄のビジョンをつくろうという発想のもとに来たというふうに理解しております。

ところが、今言ったようにいろんな断片的にこうありたいというのは、地方とか、それこそ若い人も含めてあるのですが、それを咀嚼して、その要点をまとめて、理論化する必要があると思います。20年先のビジョンというのは非常に緻密な論理的構成のもとに組み立てなければならないと思っております。ところが、司会の不手際もあると思うのですが、なかなかこの議論が総合部会ではまとまりません。端的に申し上げて非常に荒唐無稽な議論もありまして、この陣容でいいかということをあえて事務局にも何度も申し上げてちょっとバトルをしておりますけれど、これは私のビジョンに対する理解と事務方の理解の乖離があるかもしれませんけれども、あえて申し上げますが、本当にこのような議論の仕方では禍根を残すのではないかというところまで私は考えております。

というのは、私もかかわった以上、20年先を決めていくわけですから、後になってこれはだれが決めたかということになったときに、今の議論の仕方では到底時代にぶれない、陳腐化しない、未来を示す議論がなかなかやりにくい状況に来ております。これは普通の議論ですと何度も言うようにシンクタンクの原案があって、この原案についてどう思いますかという議論はやりやすいんですが、いろんな意見を集めたものを我々の総合部会で論理的に組み立てて、それをビジョンに落とし込まなければいけないわけです。一応こういうマトリックスもありますけれども、委員の一人からもこういうやり方では従前の振興計画と何も変わりはないじゃないかという厳しい意見もございました。私は、責任上大変厳しいことを常に事務局に申し上げているのですが、その辺の理解の違いがあるということを最近感じております。

ともあれ、総合部会は走っているわけですから、さっき申し上げたように鋭意努力をして責任を果たす気持ちにはいささかも変わりがないんですが、こういう課題を抱えているということをあえて皆様にご理解を賜りたいと思います。拾い集めた県民の意見を科学的にまとめてビジョンに落とし込む作業が今遅れております。私もいろんな審議会に参加した経験がありますが、３時間たっぷり時間を取って議論をするというのはほとんどなくて、その中で、私も責任上、提起をして、もっとこういう議論もしましょうということをすればいいんですけど、さっき申し上げたように、洞察力とかこれをまとめ上げるような議論がとても弱くて、もちろん中には非常に立派な意見を申し上げて議論する素地もあるんですが、要するにもうちょっといろんな意見を聞いた次に、理論的に、科学的に、洞察力に基づいて、時代に陳腐化しないような、禍根を残さないような指針となるということは、非常に慎重審議が必要かなという感じがするわけでして、このまま単なる落とし込みだけ

でいくと、正直申し上げてまとめるのに大変だし、これは結果として審議委員の皆さんにここで相当な議論をお願いすることになるかもしれませんが、ちょっと責任者でありながら課題を申し上げて恐縮ではありますが、とても苦悶しておりまして、そういうところを申し上げておきたいと思います。

あとは、先ほど申し上げたように、これまで何をやってきたか、どういう議論があったかという列挙したものにつきましては、事務局で資料１以降に詳しくはあるかと思いますので、そこで多分ご説明があるかと思いますので、それに譲りたいと思います。以上です。

○平会長　どうもありがとうございました。

非常に重大な課題を抱えておられるということで、これはこの会全体の課題として取り組むべき必要があります。

今、富川先生がお話になったのは、資料５がまず大まかな流れになりますかね。

○富川副会長　はい、そうです。

○平会長　それからもう１つ、マトリックスというのが見えなかったと思うんですが、本日の資料番号で言うと資料３のほうで、それから総合部会の課題というものにつきましては、本日配付の富川先生の資料でございます。

こういうお話はやっぱりここでぜひというのを聞いておかないと、ただ聞きっぱなしになりますので、いかがですか。特に、先生の今のお話に対してだけですけど、ご発言ございませんか。

それでは、まだ事務局の説明もいろいろこれからやっていただきわけですが、その前に本日全体の流れについてということで資料６ですか、仲本豊委員のほうから環境と資源についての発言をということで来ておりますので、よろしいですか。仲本先生。

○仲本委員　仲本でございます。委員の方々たくさんおられるので、簡潔にビジョンにぜひ取り入れていただきたい視点、それから先ほど富川先生がおっしゃったベクトルの部分でぜひ変えていただきたいということで、本日は２点申し上げたいと思います。

環境の視点と資源という切り口でお話をさせていただきたいと思います。

まず環境でございますけれども、先ほど富川先生のほうからのご説明もございましたけれども、資料５のほうの「目指すべき将来像のイメージ」ということで、現在県のほうで想定されている５つの５本柱がございます。その最初の「美しい自然と沖縄らしい風景に囲まれた島」というのがございます。これにつきましては、だれしもがそうだと思う視点だと思います。ただ、これを実現しようとするときに、このベクトルという話でいけば、

今まで開発をするのか、環境を守るのか、この対立軸があったと思います。だから、つくるのかつくらないのか。オール オア ナッシングの議論というのが絶えずされていたと。ただ、開発と環境保全というのは、なかなか両方とも保つというのは難しいかもしれませんけれども、これについてはできる限り前向きな取り組みをしていく。環境保全についても今まで失ったものを取り戻していく。人間の力で取り戻していくということをやるべきじゃないかという観点で書かせていただいております。若干、メモを読ませていただきます。

復帰後約40年間で様々な開発、我々の豊かな生活のために、その対価として本土にキャッチアップしていくということで頑張ってきたんですけれども、ある程度追いついてきたんですが、それに伴って失ってきた環境というのがございます。特に干潟であるとか、藻場であるとか、サンゴであるとか、浅い海域の海というのをかなりの部分埋め立てて、そこにいろんな住居であるとか工場であるとか、そういったものをつくってきたということはございます。これを取り戻す取り組みが重要だと私は思っております。

ポツで２つほど書いておりますけれども、島の原風景や環境の修復・再生を促進する「自然再生型」「環境創造型」の事業ということで書かせていただいております。

ミチゲーションということも書かせていただいております。若干、ミチゲーションをご説明させていただくと、一般的には開発事業等に伴う自然環境への影響を軽減するために、影響の最小化、自然環境の修復・再生、それから代替となる空間、そういったものを整備していくということがミチゲーションでございます。

こういったものを明確に柱、それから取り組みの基本姿勢の中にきちっと入れていただくことが必要なのではないかと思っております。

皆さんご存じのとおり、例えばオニヒトデであるとか、サンゴの白化であるとか、そういった対策も当然必要でございます。それから、赤土防止条例というのが県のほうで策定されて、それなりに効果は上げているということは聞いておりますけれども、やはり依然として我々が小さいころ育った環境であった白砂青松というのが、白砂じゃなくて赤砂の青松という形になっている場合も多々見られます。こういったものを前向きな取り組みとしての、そういったものも含めて社会資本ということで、そういった事業を重点的にやる必要があるのではないかと思っております。人工海岸につきましても、総合部会の資料の中に一部載っておりましたけれども、県内の海岸線のうち約３割ほどが確か人工海岸になっているというデータもありまして、ただ、その３割というのは、少ない数字に思うかも

しれませんけれども、我々が住んでいる集落の居住地の周りというのはほとんど人工海岸になっていると感じるように、テトラポットであるとか、人工的な護岸であるとか、そういったものになっていて、やはり昔の原風景に近いような形を取り戻すことが沖縄らしさ、それから観光のさらなる発展というのにつながるのではないかと思っております。

今、サンゴの話をさせていただくと、沖縄周辺のサンゴに農水省にいたときに年間約2,000億円の便益があると、そういった試算もさせていただいた時期がありまして、そういった年間サンゴ礁に約2,000億円ぐらいの便益があるという話もありますので、こういったものに公共的な財産という位置づけで投資をしていくということが十分可能なのではないかなと思っております。

それから、例えばキャンプシュワブで埋め立てをされる、それから泡瀬の干潟を埋め立てるという話があるときに、周辺の影響の緩和の話は多少なりとも多分公共の世界でするんですけれども、沖縄のほうでは、それの代替となるほどの規模の整備というのはほとんどされておりません。非常に環境に対するインパクトも大きいものですから、代わりにそういった浅い魚の育つような環境、干潟をもう一度つくるとか、藻場をもう一回つくるとか、そういった取り組みをぜひ総力を挙げてやっていく必要があるのではないかということでございます。この点については事務局のほうにぜひご要望したいのが、関係部局でそういったものに関するデータというのがあると思います。埋め立て面積が例えば1972年当時は面積がどれぐらいで、現在埋立地がこれだけ増えて県土が増えたと。それに伴ってサンゴであるとか、そういった環境がどうなっているのか。藻場、干潟がどれぐらい減ったのか。そういったものも踏まえて、これから整備し得る面積だとかそういったのをきっちり位置づけてやっていく必要があるのではないかという要望も含めてさせていただきたいと思います。

それから２点目でございますけれども、これも資源と書いておりますけれども、大きな将来像のイメージの２番目に「歴史、伝統・文化を尊重する安全・安心な島」というのがございます。それと３つ目に、「希望と活力にあふれる豊かな島」という言葉がございます。こういった安全・安心な島、豊かな島というのを実現する沖縄の資源というのをこれからも伸ばしていく必要があるんですけれども、この切り口、ベクトルという話でいくと、島嶼県だから何でもかんでも外から入れればいいやという、経済的な発展があればお金でいろんなところから物が買えるというのがあって、外から移入してくるというのが根本的な考え方に経済合理性の中ではあると思います。ただ、島嶼県ということでございまして、

また沖縄県の場合は近隣に基地もございますし、近くに中国、それから台湾、海外とも接しております。いろいろとどういったものを想定するのかというものもあるのですが、非常に立地条件、地勢的な条件から考えると、例えば食料自給率が30％をはるかに下回っていると。これはサトウキビのカロリーを入れての28％ですので、実際穀物として入る自給率という考え方でいくとかなり低い数字になります。それから、エネルギーについては、0.5％ということでございますので、やはり不測の事態をも想定した視点の切り口で、これからのビジョンをつくっていく必要があるのではないかということで、細かく言えばたくさんありますけれども、大きく「食と環境」ということと、「エネルギーと環境」ということで、２点提案させていただこうと思っています。特に農林水産業というのは、なかなか沖縄の所得は全国の７割ということがございますけれども、比較的低いのでございますが、ただ海外との競争ということでの経済合理性の観点だけで維持することは非常に困難でございます。やはりお隣に東社長がいらっしゃって、観光業界がありますけれども、地産地消の仕組みを多少高くとも、消費者・実需者に買っていただく、使っていただく、ある程度の量は使っていただくということの仕組みをつくり上げることが、もう一面として沖縄ならではの食材、地場のものを。極端な話100％提供しますよと。そういったものにまた魅力、価値観の高まりというのがあるのではないかなと。それが沖縄健康長寿食であるとか、豊かな田園風景、そういったものを保つ一つの柱になるのではないかと思っております。

資源としては農地、先ほど申し上げた海の中の漁場づくり、それから当然それを担う人づくりが重要でございます。これを言うと長くなりますので。その中の、特に水の視点というのをちょっと書かせていただきました。水につきましては、我々小学校の小さいころには、年中水不足でございまして、各家庭に天水を利用する施設というのが完備されておりました。ただ、今はこれは全くございません。北部のダムのほうに全く依存しているという状況でございまして、各家庭の上にはタンク、断水が来ても自分の家は止まらない。ただ、使用量としては全く変わらないわけでございます。こういう水についてはやはりこの２、３年皆さんも感じるかもしれませんけれども、天候が不順でございまして、こういう不測の事態も想定したような形で、水というのが全世界で一番重要な資源でございます。生命の源でございます。石油がなくなっても、生きていくことはできますけれども、水がなくなると生きていけない。そういう状況もございますので、この水資源のリサイクルということで社会資本を考えていただきたいと思っております。書いてあるのは、今、総合事務局さんのほうでも想定しているんですけれども、生活排水処理を高次処理をして、そ

れを農業に使っていこうという発想で、計画をつくられているということもございますけれども、単に溜めた水を生活排水で使い、それを処理した水をさらに農業で使うという形であれば、水の循環のリサイクルというのもより効率が高まるという状況がございますので、そういった視点での基盤整備も含めた体制づくりをぜひお願いしたいと思います。

それから最後になりますが、エネルギーのほうは私専門ではございませんので、あまり申し上げる中身もないんですが、非常にエネルギーというのは、そういったところが商品としての投資がされている関係もございまして、資源価格が乱高下します。非常に長いビジョンを持った形で取り組みにくい部分というのがございますけれども、ただ、それもエネルギーの自給率が１％にはるかに満たないという沖縄にあっては、例えば公共交通機関を電化していく。バスなんかでもハイブリッド化していく。それからレンタカーは可能な限りエコカーの形でハイブリッド車とかそういうものでやっていく。それから長年、県の振興審議会のほうでも話題が出ますけれども、鉄軌道の導入というのをして、化石燃料への過度な依存を多少でも緩和していく施策を柱立てとして必要なのではないかと思います。それから、省エネの徹底だとか太陽光発電、自然エネルギーを可能な限り利用推進という話でございますけれども、これも例えば事業所、共同住宅なり一般住宅に、建築確認の際に、そういった太陽光発電とか、自然エネルギーを採用しないと建築確認を出さないというやり方だってあるわけですから、それをすることによって少しでもエネルギーの自給率が１％でも２％でも向上するということになれば、中長期的なことを考えると非常にいいことだと思いますので、そういった施策も含めた検討をぜひお願いしたいと思います。

そのほかに、未利用エネルギーの問題とかございます。これも新しいガス田だとか、いろんな対外的な話とか、いろんなものが絡むので難しい話だと思うんですけれども、こういったものも含めて、エネルギーの地産地消という観点で考えていただきたい。食とエネルギーの地産地消というのをぜひこの柱立てとして考えていただきたいという要望をさせていただきまして、私のお話を終わらせていただきます。

○平会長　ありがとうございました。

それでは、今の仲本さんの発言に対する討議もあとでいたしますが、富川先生のほうから予告がありましたように、事務局のほうでこれまでの総合部会における議論についての報告をお願いできますでしょうか。

○事務局（伊集班長）　企画調整課計画班の伊集です。よろしくお願いいたします。

これまで、５回総合部会を開催させていただきました。１回目と２回目については第１

回の審議会でもお配りいたしました県としての21世紀ビジョンの策定の基本的な考え方に基づいて、自由にご議論いただくということで、１回目・２回目は議論をしていただきました。第３回目で、それらを踏まえてビジョンで議論すべき重点課題とは何かというのを整理をいたしまして、先ほど富川先生もお示しになりましたマトリックスにまとめて議論をしたという形になっております。第４回は、それをさらに絞り込んで、さらに柱となる課題、それとその課題に対する対応方針という形で議論させていただいて、第５回で構成案、きょう先生がお話になった構成案をまとめさせていただいたというところです。

資料１のほうで、これまでの主要な議論の中で、こういった取りまとめの中で、どういった観点で事務局として整理をしたかという部分をお話をさせていただきます。

まずビジョンには、基本理念を置くべきであるという議論が最初に出ておりました。ビジョンとは何かということで、県民の目標を言葉で表すことが必要であるというご意見です。それと、ビジョンは理想と現実を兼ね備えた実現可能なものであるべき、これは資料１の１ページのほうを、飛び飛びに抜きながらお話をさせていただいています。ビジョンには、思想性と宣言的要素の２つを持たせるべきというふうなお話がありました。思想性については、ビジョンの策定後は県民に伝わるような工夫が必要と。宣言的要素は、県外に対し人が来ていただくという部分を含めて、沖縄県がどうあるかという宣言をすべきというようなご意見であるというふうに整理をしています。

あとは、次世代とともにあるべき姿を取り戻すという視点も大事であるというところです。ビジョンの基本理念の中に対話を入れていくべきとか、共有すべき価値観とは何かという部分で、沖縄は、異質を前提とした多様な地域の集合体、そういう状況であるので、県民全体で価値観を共有するためには、共感できる前向きなメッセージの発信が必要といったご意見もありました。人間を中心とした価値観を持つべきというご意見もあります。

２ページ目に移らせていただきます。沖縄が守るべきもの、譲れないものとは何かという部分で、これはこれまでも言い尽くされていると言いますか、そういう部分もあるんですが、「平和」ですとか、「命どぅ宝」、「ホスピタリティ」、そういった部分もきちんと押さえていく必要があるというふうなお話もありました。

ユニバーサルな価値観というものも確立すべきということで、沖縄を「邦」として、くっきりと浮かび上がらせるような、そういう独立性にある価値観、20年経っても朽ちないものを議論すべきというふうなご意見がありました。

策定のプロセスですが、プロセスが非常に重要であるということと、これまでの計画策

定とは違うということを県民の皆様にもわかっていただく必要があると。本来はもっと地域住民と対話をしながら策定をすべきであろうというふうなご指摘もありました。よいトップダウンとボトムアップのマッチングが重要ということで、市町村や地域の計画部といった部分との関連性も、きちんと認識すべきというふうなお話がありました。

次は３ページです。これは構成案の流れに沿っていろいろと整理をしているところであるんですが、目指すべき将来像、理念に関する部分とかビジョンとは何かというのが今までお話した部分です。目指すべき将来像に関しましては、道筋の出発点、今どこに立っているのか、将来どこに向かっていくのかという部分については、今どこにいるかというところからスタートしなければならないというところで、課題認識というのは極めて重要というご指摘です。

将来像については、県民の生活基盤を固めることを優先すべきというふうなご意見もありました。ちょっと飛ばしますが、将来像がどう沖縄の発展に結びつくのかを示すことが必要。将来像にはサブフレーズといったものもつけていくということも重要ではないかと、外に向けたインパクト・訴求力を考えると、サブフレーズで将来像をイメージさせ、政策に具体的な展開を示すような流れという関係をきちんと明確化すべきということで、例えば基本理念に基づいて、将来像の中に「生命」というサブフレーズが付くのであれば、それから導き出される施策の方向性として、医療やバイオ産業といったものが重要であろうと。「人権」という位置づけがあるのであれば、人間の安全保障センターについて検討するとか、「平和」であれば地域間協力、国際貢献。「連帯」ならばセーフティーネットですとか、国際協調主義といったものについて機能していくべきというご意見がありました。

将来像については、外の目を意識するということも重要であると。外から見ていただくことによって、沖縄らしさというものをより際立たせることができるというようなことだと思うんですが、客観的なものと主観的なものの両方が沖縄らしさの中にはあると。客観的なものとしては地理的な条件であるとか歴史等々、主観的なものについては生活文化・県民性といったものがあろうということでした。県民が共有できるようなキャッチフレーズも必要というようなお話もございました。

次に４ページです。少子高齢化の部分です。人口減少、少子高齢化、経済を予測する上で、非常に重要な要素であるということで、それについても十分な予測を立てながら考えていく必要がある。それと、人口減少局面においてどのような発想で沖縄を経営していくのかという部分で、創造的縮小という観点から価値観を構成していくという方策もあろう

というお話もありました。人の受け入れについてどのように考えていくのかという問題もありました。

さらに進んで、人口の増減に影響を受けにくい沖縄が、沖縄として確立しているという地域をつくっていれば、交流人口が増大するというところで補えるのではないかというご意見もありました。

分権と道州制ですが、これについては時代の流れの中で、次の計画の策定とかに向けて現実の時間軸での検討の流れを踏まえながら、整理をしていくというふうに考えています。

アジアの経済発展とグローバル化です。沖縄の特性として、日本にとっての沖縄の重要性とは何かというのを前面に打ち出すべきというお話です。安全保障の根幹を支えてきた地域であること。広大な海域、国土に準ずる排他的経済水域を確保するエリアであること。東アジア共同体など、アジアをさらに総合依存・連携等の結びつきを深めておりますので、沖縄は日本のアジア戦略に極めて重要な場所であるということを確認していき、発信していくことが重要というふうなご指摘でした。アジアの中での沖縄の立ち位置をどのように考えていくのかという整理も必要というお話です。

次のページにいきます。そういった沖縄の立ち位置とかを考える上で、沖縄のソフトパワーをどう生かしていくかという部分も、極めて重要な要素であるというご指摘もあります。先ほど仲本委員のほうからもご指摘がありましたが、公共交通ネットワークですとか、人的交流ネットワークのあり方についても、十分に検討し協調すべきというふうなご意見もあります。

国際貢献のあり方として、アジア・世界に対して沖縄はどう貢献するかという観点で、これは日本の国益にも資する新たな「国際公共財」としての貢献ということで、大学院大学ですとか、国際センター等を活用した部分というのも考えるべきというような指摘もあります。

海洋海域の可能性ということで、海洋環境の共同管理といった問題で沖縄が貢献をしていくというふうな視点も重要というようなお話がございました。

地域社会と安全・安心の部分です。沖縄の地域社会は自己規制的、内向きな部分もあるというふうなご指摘もあり、比較できる視点や自由な議論も必要だろうというふうなお話もありました。ただ、沖縄の文化として守るべきものは、それをつくった人々の精神ということで、生命力が豊かなものでないと伝統文化にはなり得ないと、時代の淘汰ですとか、人の外からの目にも耐え得るようなものが文化として継承されていく。そのために自らの

ことをきちんと見ていく必要があるというふうなご指摘もありました。

ローカル・ルールとして、市場原理とそれを制御するバランスのいい仕組みを構築すべきということで、具体的には環境分野・福祉分野ですが、これも市場の原理に任せすぎずに、理念の実現に向けてどのような制度をつくりこんでいくのかというのも考えていく必要があるというご指摘がありました。企業の地域貢献に対する社会評価をどう確立していくかというふうな問題もありました。

６ページにいきます。教育と人材育成に関する議論です。2030年、このビジョンの目標年次には、グローバルな発想の人材、地域に対する誇りを持った人材を生かせる社会であるべきということで、与那国島での取り組みのお話もあったんですが、台湾と近いということもあり、台湾に進学させるというふうな人材育成のあり方についても検討すべきではないかということと、語学も重要であるわけですが、地域に誇りを持つ精神性も大切ということで、国際的に何を発信していくか、それを明らかにしていくべきであろうと。

企業が育つということは、人が育つということ、地域が発展するということは、そこに住む家族が豊かになること、このことを共有できるリーダーを多く育成すべきということで、キャリア教育の重要性も強調しておられる委員もおります。

産業・経済の部分です。豊かさとは何かという部分で、先ほど申し上げた人口減少局面で、創造的縮小という考え方の中で、縮小は悲観的ではないという価値観の転換ですが、国民総幸福量、ＧＮＨというＧＤＰに代わる指標の考え方を取り入れてはどうかということで、豊かさを物質的な部分のみで測るのではないという部分をもう少し整理をすべきであろうという意見がありました。

あと経済的な豊かさを実現していくためには、交流人口を拡大していくという観点も重要であるというお話もありました。

環境とエネルギーです。環境に関しては、キャリング・キャパシティを考えるべきというのがまず１点目にありまして、あと沖縄環境フロンティアになるべきというご意見があります。

国際的な環境ビジネスのモデル地域を形成していくことも重要であると。産業振興の面で、環境を考慮する場合、静脈、動脈産業の一体化が重要であると。環境問題をごみ問題として片付けるのではなく、産業として捉えるべきというようなご意見もあります。

島内循環による環境ビジネスの創出といったご意見で、資源循環型の経済社会を形成していく必要があるというふうなご意見です。

７ページ目に、それと関連しまして南に開かれた技術立県という部分で、そういった観点も必要であるというお話がございました。

エネルギーで、省エネもですが、また新エネルギーとして次世代エネルギーといった部分の開発による環境ビジネスの創出も重要であろうと。

離島の問題です。海の安全確保とゾーンを管理することは重要ということで、国境離島を含む広大な海域をどう考えるかという視点がございます。ここは構成案の中にも整理をしてございますが、その中で３つ目ですが、国土の末端（辺境）から領海・排他的経済水域を構成する国土の骨格というふうな形で発想の転換を図るべき、沖縄は辺境の地ではなくこれだけのエリアを持っているんだという主張をすべきというふうなご意見もあります。

日本の国益として安全保障を担保している場所ということで、この点をどうとらえるかという観点から、沖縄の「管理権」「所有権」を主張するとともに、国に支援義務があるということを主張すべきというご意見があります。

さらに、将来の資源活用の観点から、「鉱業権」についても主張してはどうか、検討すべきというふうなご意見もあります。

ビジョンでは、国益を視野に入れつつ、今後の重要課題、ここでは海洋・海域の重要性ということで絞ってありますが、これも将来戦略の要素に据えて、国と政策協議を重ねていくということが重要であろう。そういうことを意識してビジョンをつくりこんでいただきたいというお話です。

それから、在沖米軍基地についても様々な議論がありました。ビジョンでは、「あるべき県土の姿（基地のない沖縄の姿）」というのを主張すべきというご意見がありました。基地の問題は市場原理とは異なって、経済が自己増殖しないということで、発展が限定的になってしまうという問題です。それと、あるべき県土の姿を主張すべきなんですが、仮に2030年に基地が残っているとしても、基地の民需転用ですとか平和利用など、思い切った提案(問題提起)をすべきというご意見もありました。

2030年の沖縄を考える上で、返還状況をどう考えるかという部分で先ほどとちょっと重なるんですが、本来のあるべき県土の姿なんですが、現実問題として2030年までにすべての基地が返還されているというのはちょっと考えにくいのではないかというご意見があるんですが、しかし、少なくとも嘉手納以南の基地はないという状況は想定すべきというご意見であります。

2030年にすべての基地が返還されていないのであれば、それと残された部分とどう向き

合うかを検討すべきということで、アイディアという部分なんですが、基地からの所得を株式化するとか、基地を平和目的に活用することの検討。

実際にアメリカ本土でやられているようですが、基地のソフト面といいますか、基地の先端技術、持っている情報技術とか、そういったものを企業に転用することによって、スキルアップや雇用の場の創出に結び付けていくといったことも検討してはどうかというご意見が出ております。

最後の８ページです。基地は縮小していくと想定されるということで、基本的には基地跡地をどういう街にしていくのかという議論をすることが重要であるというご意見・ご指摘もあります。あとは、基地は返還から跡利用まで、国が全責任を持つべきというご意見があります。日本の国益を軍事面で担保し続けた場所であるということ。国として基地が安全保障の面から必要というのであれば、応分の負担を求めるという部分を含めて県の考え方を提示すべきというご意見もあります。

跡地利用のためには、事業主体と財源の問題があるということで、限界のある既存制度ではなく、新たな特別立法等が必要であるというご意見もあります。

基地返還跡地についてです。この返還跡地の利用は、ビジョンの大きな構成要素の一つということで、それなりの考え方をきちんと打ち出すべきというご意見があります。

かつて沖縄にあった空間思想の復活ですとか、いろんなご意見もありましたが、国営公園にしてはどうかというふうなお話もありました。

基地跡地の利用上の問題として、跡地利用のロードマップがないというところで、跡地利用には時間がかかるという部分は問題点としてあると。

都市計画、まちづくりへ移行する際、国・県・土地所有者の全体をまとめるコーディネーターが不在であるという状況も指摘されております。

続いて、まちづくりです。まちづくりは、市場任せではなく、ルールづくりが必要ということで、景観、風景を守るためのモデルケースを提示してはどうか。沖縄に適応した都市計画を推進すべき。トップダウンではなく、住民との協働による計画づくりへ転換していくべきというご意見がありました。

コンセプトとして、「ユニバーサルデザイン」と「サステイナブル・デザイン」というキーワードも示されております。

ビジョンの視点として、「景観10年」「風景100年」「風土1000年」を念頭に置いた都市づくり、時間が経過しても価値が劣化しない、あるいは時間とともに価値が高まるような都

市づくりをすべきというふうなご意見があります。

これらが、１回目から５回目までの各委員から頂いたご意見を要約して整理をさせていただきました。資料２は、その中から先ほど申し上げましたビジョンにおいて議論すべき重点課題というのを抽出をしてございます。それが資料３のマトリックスの将来像との関連の中で整理をさせていただいております。

さらに資料４で、解決方針も含めてその柱との関係を整理させていただきました。資料４について、若干ご説明をさせていただきます。

まずビジョンの基本理念についてきちんと考えるべきというお話が各委員からありまして、これに向けては20年後の沖縄を見通すことが、富川副会長からもありましたように非常に難しく困難な激動の時代であるからこそ、変えてはならないもの、目指すべきものは何かというのを明らかにして、理念を県民全体で共有することで、理想と現実を兼ね備えた実現可能なビジョンを策定していきましょうというような整理にしてございます。

人口減少局面における社会の姿はどうあるべきかというところで、経済規模は縮小することになるということですが、無駄をそぎ落とし経済を縮小しても、幸福を感じる価値観で沖縄をどう構築していくかを検討するというふうな形で整理をしてございます。

アジアの発展とグローバル化です。アジアの経済発展、沖縄の発展にどのように活用するのかということで、日本にとっての沖縄の重要性を整理し、そのうえで沖縄の優位性を発揮できる分野へ積極的に参入すること。あるいは、地理的特性の活用等によって、アジア太平洋地域の中でなくてはならない存在になるべきというふうな整理にしてございます。

グローバル化にどう対応すべきかという部分です。日本本土とアジア・太平洋地域の結び目となって、アジアとの人的・物的交流ネットワークの構築や、世界規模の課題解決に向けた国際貢献・協力拠点の形成等を図るというふうに整理をしてございます。

地域社会をどのように再生すべきかという課題については、小学校を単位とした地域情報ネットワークを構築し、情報の共有化を図るとともに、地域の人材の有効活用や住民の協働による地域づくりを通して、世代間の交流を深めコミュニティの再生を図るというふうにまとめてございます。

人材育成です。将来の沖縄にはどのような人材が必要かというところで、沖縄の発展に必要な人材育成の方向性を明らかにした上で、語学に力点を置いた教育システムの構築や、沖縄らしい個性を持った人間の形成を図るとともに、アジアの教育機関を活用した人材育成や独自の奨学金制度等を検討するというふうに整理をさせていただきました。

経済・産業分野では、豊かさとは何かという部分で、ＧＮＰに代わる指標として、生活の質や福祉の充実等を含め、国民・県民の幸福度を測る国民総幸福量のような指標を検討するという整理をしてございます。

環境と経済の好循環をどのように構築していくのかという部分で、新エネルギー・次世代エネルギーの導入や、省エネ・リサイクル等に関する技術革新を進め、動脈産業と静脈産業の一体化を図り、廃棄物資源の島内循環による環境ビジネスの創出を検討する。

環境とエネルギーについてです。持続可能な循環型社会をどのように形成すべきか。ゾーニングやキャリング・キャパシティ、保全のためのルール等に加え、県民の意識改革を図り、先進的な島嶼型環境共生・循環型社会モデルを構築する。

国境離島を含む広大な海域をどう考えるかという部分です。排他的経済水域を確保するエリアであること及び豊富な海洋資源を有することを踏まえ、日本の国益を担う地域として、国の責務に基づき対応すべき内容等を検討するというふうに整理をいたしました。

在沖米軍基地です。県土の発展のために、返還跡地等をどのように活用すべきかという点は、アジアの経済発展やグローバル化の進展に対応した産業振興を図るための空間として活用するとともに、居住空間の確保や交通体系の再編整備等を検討する。

まちづくりについては、時間とともに価値が高まるようなまちづくりを進める。それと、沖縄全島が都市化しているという認識に立って、快適性や安全性、そういった観点を含め県民とともに考えていくというふうな形で整理をさせていただいております。

これらの流れを踏まえまして、資料５でお示しいたしました構成案を作成しております。

富川先生のほうからご指摘のありましたそれぞれの因果関係ですとか、それらをどのように結び付けていくのか、これは今後十分に検討していく必要があると事務局も考えておりますので、今後十分に検討を重ねながら進めてまいりたいと思います。以上です。

○平会長　　ありがとうございます。皆さんにはもう聞くばっかりで申しわけないんですけど、もう１つだけこの200日間の間に起こったことですが、地域フォーラムについてだけ、手短に目的と地域に行って聞いてやっと出てきたというか、そういう点だけでお願いします。

○事務局（伊集班長）　　６回、今年の１月27日を皮切りに２月10日までで、６カ所で浦添市から始まりまして、石垣市まで開催をいたしました。

各地域で、まず最初にやったところは浦添市で、高校生の方々の意見を聞きたいということでまずキックオフとして、ディベートを呼び水として設定をいたしました。ディベー

トを昭和薬科大付属中学・高校ディベート部の皆さんにやっていただきまして、あと各地域で活動を行っている高校生たちもフロアに参加をしていただいて、意見交換を行っております。高校生が自らの将来をどのように考えるのかというのを、真剣にフロアからも意見として出していただいたというふうに思っております。１ページから３ページが、浦添でありました那覇・浦添・宜野湾地区の概要であります。

北部地区と次の中部地区に関しましては、総合部会の委員である平田大一委員にコーディネーターをしていただきました。そこで地域における課題ですとか、地域の振興、どのような地域をつくっていくのかという観点から、いろいろお話をしていただきました。地域の活性化を図っていくことがひいては沖縄県全体の活性化につながるという観点でのお話をいただいたというふうに思っております。内容に関しては、割愛させていただきます。

６ページは南部地区ですね。ここに関しましては、私どもの企画部長の上原がコーディネーターを務めさせていただきました。「ビジョン懇話会」という19年度に設置をしました県知事が主催をしている懇話会があるんですが、そこのメンバーの方々に入っていただきまして、南城市で開催をしましたので、地元の南城市長にもお話をいただきました。このときには、それぞれ各分野で全県的な話、あと古謝市長のほうからは南城市の取り組みという部分で合併後地域をどのようにつくっていくのかという観点から、いろいろ考えておられること、実践してこられたことをベースに意見交換をしていただいております。

次の中部地区ですね。これは平田大一委員にコーディネーターをしていただきました。ここでも活発な議論が出まして、特に経済的な自立だとかまちづくりをどうしていくのかという部分と、それと各地域で事務局のほうから募集をしまして、この地域フォーラムで発表していただく方というのを選定しまして発表していただいたのですが、この中部の発表者は、いろんな海洋テーマパークを建設したらどうかとか、非常に夢のあるお話も含めて、意見交換をさせていただいております。

あと、宮古・八重山地区は、富川先生にコーディネーターをやっていただきまして、それぞれ地域のあり方、地域に対する思いもそうだったのですが、将来を見据えた部分で、例えば宮古のほうでは伊志嶺さんという方が蒸暑地域ということで、沖縄は湿気が高くて気温が高いというところで、沖縄にふさわしい居住空間という部分が必要であろうということもありまして、蒸暑地域は全世界で20億人の人口を抱えているそうです。そこをターゲットといいますか、マーケットにするような形で、貢献ですとか技術協力発信をしていったらどうかというところで、具体的な協議会とかも立ち上げて、活動されているという

お話もございました。

八重山地区でも自然環境の保護の観点とか、観光をどのように進めていくべきなのかといった観点からお話をいただいたというふうに考えております。以上です。

３．意見交換

○平会長　ありがとうございました。委員の皆さんも話を聞くだけで、何のための審議会かと文句を言われそうですが、ここで皆さん意見を聞きたいと思います。

特に、富川部会長から問題提起がされました、今やっているこのような方法で、つまりこういう意見を取りまとめるというのでいいのかどうかという、この審議会の進め方と、それからさらに委員の皆さんから見て、こういう視点が欠けているんじゃないかということ等をご意見をいただければ幸いです。どうぞご自由にお願いいたします。いかがでしょう。

○饒波委員　まず、きょう仲本さんのお話を聞いて、非常にすばらしいと思ったんですけれども、環境を取り戻すことをひとつの公共事業として、また新たに立ち上げていこうと。それから共存が生まれるかもしれないということ、私はそれに対して賛成という意見を申し述べておきます。

それと今、平会長から言われましたように、これがちょっと議論されてないのではないかというところなんですけれども、いわゆる離島問題なんですけれども、離島問題が話し合われているんですけれども、それとフォーラムでも離島のほうのフォーラム、宮古島と八重山でやられているんですが、離島のほうでも一般的な話で、離島と本島との格差の問題が話し合われていないのではないか。要するに離島のほうから、この格差をどうしてくれるんだと。これからそれを縮める気はあるのかというような議論がいっぱい出てくると思ったんですけれども、それがほとんどないということでちょっと意外な感じがしたんですね。離島問題は、沖縄本島でも北部と中南部の問題があると思うんですけれども、先ほど事務局のほうからお話があったように、嘉手納以南という言葉がすぐ出てしまうような、要するに嘉手納以北はどうなってしまうんだろうという問題、この問題は今まで外圧が強すぎて、諸先輩を前にしてこう述べるのは不遜なんですけども、沖縄は外圧が強すぎてその問題、沖縄がいつまで経ってもこういうふうに思って、考えてきたことのない問題ではないかと思って、これから道州制になっていくというと、そういう沖縄の中での格差というので、そういうことは話し合わなくていいのかなというのがありました。

○平会長　ありがとうございます。それでは、これはやっぱり富川先生ですかね。一番

私が気にするのは、この中にも出てきます離島でも、伊良部島までは高等学校があるんですが、中学で「島立ち」という言葉だそうですが、15歳でもう島を出なくてはいけないと。そうするともう帰ってこないという問題があるそうで、大学の学長でもありますのでそういう先生からどうでしょう。

○富川副会長　直接今のご質問に答えることはできないんですけど、一応私が離島の石垣と宮古へいった感想は、やっぱり地域の代表者がいろいろ発言なさったんですが、どっちかというとネガティブな面よりも地域のポジティブな面を強調なさっていた感じがいたします。つまり、自分たちが住んでいる島が一番だと。その島をどういうふうにしてより保存していくかという視点があって、おっしゃるように格差についてどうするかという地元の意見はあまりありませんでした。今言っている個人的には個別の議論についてはこれを拾い上げて、優先順位も考えながら、それからこれをどうビジョンに落とし込むかというのが、いつも私の頭を悩ませている問題ですが、この審議会でこれをつくらないといかないわけです。これを原案といいますか、たたき台を我々に課せられた宿題と思っているわけですが、そのときに何度も言うように、この生の意見を聞いて、どういうふうに処理していくか、どういうふうにこれをビジョンに落とし込むかというときに、単なる要望をきいて、行政の反映ではなくてまさに21世紀を語る議論ですから、例えば具体的に言うと、ある元校長先生が自分たちの住んでいる池間島はとてもいいところで、そういうところにいっぱい花を植えているという話だったんですが、要は、例えば理論的に分析すると、私の個人的な解釈ですが、あまりにも今の世の中市場原理に流されていって、コミュニティの持つ重要性とかそういうものがあるにもかかわらず、何年かするとみんな都会化していくのかということに対しては、私はある意味では市場の失敗とかそういうものは沖縄では守るべき考えがあるのではないかと。

例えば、いじめとか、人間関係が非常に粗雑になるとか、ニューヨークあたりではもう収入は多いんだけどかなりの比率で精神科に通っているとか、そういうものは避けていくという発想を理論的に解釈して、そういうことも成り立つわけです。ですから今言ったように、地元の意見を聞いてどういうふうに理論的に考えて将来に生かすべきかという作業が、総合部会でなかなか議論しにくい面があります。

ですからおっしゃるように、個別の嘉手納以南の話とか、離島の格差とかいうものは、確かにそれは関係性を見極めなければいけないわけですが、重ねた宿題は、あるべき沖縄をどう語るかということを地域の意見から吸い上げないといけないわけです。そのあるべ

き沖縄を考えたあとで、さきに申し上げたように基本計画があって実施計画がある中で、具体的な課題についてはこういうふうに基本的にやりますという議論をしないと、とても議論が錯綜するんですね。だから私は、できればもうちょっと21世紀ビジョンというものを広報するときに、もう少し咀嚼といいますか、もっとわかりやすく説明した後に、意見聴取をすべきではなかったかと。いきなり「沖縄21世紀ビジョンについて発言してください」といったときに、はたして何名の人が具体的な意見が言えるかとても疑問に思いました。やはり、自分が住んでいる足元からの議論にしかならない。だけど、それはそれで大いに結構だと思います。だけど、それをこの部会で拾い上げて、どういうインプリケーション(implication)があるか、どういう問題を含んでいるかというそれを、ここで整理分析して組み立てる作業が、何度も言うように総合部会では表面的な議論になかなか食い込めないという議論があります。ですから問題は、あるべき沖縄をつくるときに、１つは手法の問題だと思います。具体的な課題については、それぞれのたくさんの課題がありますから、それもプライオリティを付けてどういうふうな解決をするかというのは、ある意味で次の次元かなという感じがして、まずはどうしてもそこに議論が行きがちなんですけど、まずはあるべき沖縄というものをいろんな意見を聞いてきたわけですから、それを拾い上げて、それを組み立てる必要があるというふうに思っております。ちょっと具体的な現実の問題については、今ここで個別について私見はあるんですが時間がないのでそこは割愛させてもらいます。

○平会長　ありがとうございます。

仲村さんお願いします。

○仲村委員　今富川副会長の話を聞いてみますと、まさに総合部会で様々なご意見が出て、いわゆる総花的に意見が出るのはいいけれども、それをまとめるのに非常に苦悩されているということがきょうわかりました。したがって、この審議会の委員のメンバーは総合部会と同じような議論をしていいのかどうか、非常に疑問を持つんですね。だったら、どういうふうに絞りこんでまとめ上げていくかということの問題整理が僕は必要だと思います。それで、きょうの資料４というものをたたき台にして、そこに集中的な議論をするのか、どういった議論の仕方をするのか、会長の議論の進め方が少しよく見えないものだから、どんな方向でやっていくのか、まずその辺の考え方を整理しないと、今富川副会長がおっしゃるように、様々な意見を聞くのはいいんだけども、民主主義は時間がかかりますからね。それだけ時間をかけてという割にはという話になりかねませんので、それを非

常に僕は気にしているものだから、委員のメンバーとの議論の仕方の交通整理を少ししていただきたいということを１点目に申し上げておきたい。その考え方を教えてください。

○平会長　　非常に難しいことで、やはりご指摘のように資料４にあるような問題点、それについてまとめていくという、会として個別に、各総合部会、ヒアリング等で地方の公聴会で出てきた意見と同じようなものはまだあるかもしれないんですけど、それよりはやはりどうまとめていくかという議論になると思います。ほかにいかがでしょうか。

東さんお願いします。

○東委員　　私も今の発言と関連しているんですけれども、やはりこの2030年ってもう20年後ですからすぐ来ますよね。だから、こんな総花的な話をしている場合ではないというような感じがするんですね。

ですから、ハード面においては2030年までにどうしても整備しないといけないインフラを、プライオリティをどこに置くのかという問題。

それからソフト面においては、先ほどからありましたけど、安全・安心、それは医療であるとか、先ほどの水の問題であるとか、そういった問題を真剣にどういうふうに暮らしやすい県にしていくのかということを、プライオリティをつけていくべきだと思います。

それからもう１つは、少子高齢化と資料４の２つ目にあるんですけど、これって今までの振興計画でない次の10年というのが沖縄には忍び寄っているわけですよね。それはなぜかというと、これから10年後までもまだ就業人口が伸びるんですよね。いろんな数字で皆さんおそらく数字は事務方のほうがよくわかっていると思いますけど、失業率は８％ぐらいでずっと維持しているんですけど、実は15歳から65歳の就業人口がどんどん、どんどん沖縄は増えています。ですから新しい就業者というのが、毎年8,000人ぐらいずつ増えているわけです。ということは、今は、全国の平均所得の７割とは言っても、200万円をもらう人が8,000人ずつ増えていることは、１年間に160億円ずつ県民のポケットというのは増えていっているわけですよ。ですから、郊外に大きなスーパーができても、観光客からの外客からの流動人口もありますけどうまくいっていると。ですから、10年経ったら1,600億円増えているわけですよ。県外受け取りとか、そういうのは関係なしに。

だけど、もう統計で出ているのは、あと10年から15年後は、本土のほかの県と同じように、就業人口が減り始めるわけですよね。全体のポケットが減っていく。そうすると、どんなにあがいても、経営者が努力しても、パイが減っていくわけですから、そういうことをきちっと県民に知らしめた中で、実は明るいことばかりじゃなくて非常に苦しい。沖縄

は何となく明るくて、「失業率８％あっても沖縄はみんな貯金しないからね」なんていうのは、理論的には嘘ですよね。実際には全体の所得が増えているからそういうふうにまだ努力さえすれば生きていけるので。そういうのは一例ですけど、やはり富川先生がおっしゃったように、ＰＩをする場合はやっぱり現実的な今後の課題とか問題というのを、数字をきちっと見せて、そしてその中で１つにはもちろん豊かな社会をつくりましょうということですけど、それは努力なしにはつくれないわけですから、そういったことを呼びかけて、どういうふうにしたほうがいいのか、そしてプライオリティ付けをしていかないと、おそらく話だけで2030年になっても鉄軌道もないでしょうし、何もないでしょうし、今より県外受け取りも多くなっているかもしれないしというような沖縄になるんじゃないかなという気がします。

○平会長　　ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。逆に言えば、歴史に学びたいと思うんですけど、高良先生からちょっとコメントなんですけど、私自身は実はこの地球上のさっきのキャリング・キャパシティですね。人口でいくと80億なんていう数字が出ていて、もうこんなのは20年ぐらいで追いついちゃうんです。危機感を持っているんですけど、高良先生すみません。

○高良委員　　今の総合部会での討論のポイントと、各地域でやったフォーラムの議論とそれからまとめ役になっている富川先生のメモを拝見して感じたことなんですが、実は率直に言って、復帰して30年間振興開発計画があって、その後、今現行の計画があって、その時期にも当然ある程度の目標を掲げながら、10年刻みで沖縄の振興を検討されてきて推進されてきたはずなんですけれども、ずっとこれに参加していつも思っているのは、過去30年、40年というものと同じような目線というか路線ではやらない。ビジョンを描いてそこに行きましょうということはそのとおりなんだけれども、あれから30年、40年経つと、実は沖縄の各界、各層、各地域、ビジョンを描く際に多様化しているんです。たくさんの意見が出てくる。問題はその１つ１つの意見というのはとても重たいし、意味のある意見・指摘がいっぱい出てくるわけです。ビジョンを描いてもたくさんの問題が出てくるんだと思う。

問題はそれを30年後の沖縄を考えたときに、私が懸念しているのは、現時点に立ってどういうふうに戦略的に沖縄の将来像を描くかという、たぶんその戦略的なプランというか、目標のようなものをつくらないと、もう何でもありというんだったら、過去の30年、40年とあまり変わらないという印象があって、当然個々のフォーラムを開いたり、あるいは総

合部会で若い人を中心に議論していても、意見もたくさん出てくる、ビジョンもいっぱい出てくる。問題は富川総務部会長が苦労されているみたいに、それをどういうふうに戦略性を持ったバスケットの中に落とし込んでいくのかという、そのための方法・視点は何なのかというので、この審議会も苦労するんだと思います。ですから、問題はこの審議会は、例えば嘉手納以南の問題であるとか、離島と本島地域の格差の問題であるとか、当然それは話し合わなければならない検討すべき大きな問題なんだけれども、そういう県内格差というものを生まずに離島に暮らしている人間たちがそれなりの生活基盤を持って生きていくために、それを含む大きなマップとピクチャとは一体何なのかと。しかもそれは戦略性が伴っているという。私も専門ではありませんけれども、アジアの周りのおもしろい地域というのは、きわめてリーダーシップときわめて明確な戦略性を持って物事を推進していて、沖縄の30年後のために必要な戦略的なポイントというのは何なんだと。それを柱にしていかないと、たぶん意見もまとまらないんじゃないかと。それは過去を振り向いて存在しているものではなくて、むしろ我々が現在手持ちの問題点も課題も含めて、そこを踏まえながら思い切ってどういうふうに戦略的に将来を描くかという柱を立てるのだけれども、キーワードと言ってもいいし、柱というふうにも言える、そういう状況を達成するための方法と言うんですかね、富川先生の言葉を借りて言えば「洞察力」ですか、それに裏づけられたところの戦略的な目標をどうするかというところをきちっと認識しないと、この審議会でもばらばらになってしまってまとまらないんじゃないかという感想を持ちました。まず、そのことを言っておきたいと思います。

○平会長　ありがとうございました。

要するに、過去にはないから新しいものというふうに我々の使命は重いように思えますが。ご意見をどうぞ、仲村先生。

○仲村委員　もう意見は自由に言っていいんですか。

○平会長　はい、どうぞ。

○仲村委員　この審議会の会議というのを見ますと、あと２回しかないんですね。５月と９月だから。それも今、富川先生がおっしゃるように、総合部会のまとめに非常に苦労されていると思うんだけど、今高良先生もおっしゃっていましたけれども、まさにこれからの20年後の戦略性、私が思うには、今、基地の嘉手納以南云々じゃなくて、これはひとつのトランスフォーメーションで、一応嘉手納以南を返すという日米の関係でこれは決まっている。それが沖縄県全体として、これからは沖縄の基地を県民が主体的に、どう基地

の整理縮小をしていくのか。そのことを一つのプロセスとして、この基本理念の中に入れるべきじゃないかというのが私の意見です。

要するに基地を段階的に整理縮小して、したがってその後は基地が返ってきたときにここにどういった産業をつくっていくか。またそのあとには、いろいろ意見が展開すると思うのです。まず、基地が20年あとに整理縮小されていった跡に、仲本さんがおっしゃっていたように、私の考えとしては、まさにこれからの世界は、トレンドというのは環境だと思うんですね。環境をキーワードとした沖縄がまさに「環境アイランド」というか「環境の島沖縄」、世界各国から沖縄に学びたい、沖縄を見たい、それが観光立県でもあるし世界各国から来ると。これは私事で申しわけないんですが、以前ドイツのフライブルグというところに、基地の跡地の状況を見に行ったんですが、まさに環境というキーワードからすれば、今水問題一つを取ってみても、水洗トイレというのはもう水を使いっぱなしでしょう。あれを飛行機のエアーでさっと流すのがありますね。ああいう仕組みがドイツのフライブルグの家庭にも入っているわけです。そうすると、ドイツというのは皆さんもおわかりだと思うんですが、太陽光発電は非常に経費はかかるんだけれども、沖縄の強い風力でできるのか。水力でできるのか。そういうものも含めて、まさに我々県民の生活スタイルもこれから変えていかなくてはいけない。そういう20年、30年先のために、小さい時から環境教育を含めてやっていって、沖縄全体が環境に配慮していく。車社会でもCO2の問題が出るわけだから、例えば県営住宅をつくるときも、駐車場をこれまでのように全部の車両のためには完備しない。駐車場スペースを売って、あとは歩くことを進めるとか、その場所を森林にするとか、いろんなつくり方が環境という面からできると思うんです。私は、普天間基地の跡地利用のメンバーにもなっているんだが、そのときも申し上げましたけれども、そういう基地の跡利用というのは、本当にすべて環境に特化した形の、建物のつくりや、まちの形成を含めてやることによって米軍基地の跡利用で環境に配慮されているのは沖縄だと。そうなると、先ほどの自然環境の問題を含めて、同時に環境という面からも見に行きたいと。そうすれば、沖縄が観光地として世界の人々が来るところになるのではないかと思い描いています。この中にも環境・エネルギーとありますから、富川先生のほうで総合部会でまとめられるんだったら、環境という面からぜひ議論を深めていただきたいなという思いがあります。あと２回しかないので、きょうで言っておきたいと思います。

○平会長　今のご意見の中でも、例えば歩いて職場に通うというのは基地の跡地でも職場と住んでいるところが近いような社会構造をつくらなければいけないわけですね。ある

いは、そうは言ってもちょっと遠いところもあるわけで、先ほど東さんがおっしゃったのは、30年経っても鉄道なんてできていないんじゃないかというんですが、例えばこの中でも糸満から名護までだったですかね、通しなさいというんですけれども、そういうのはどういうふうになるんですかね。審議会でどういうふうに提言すればいいでしょうか。羅列だけでいいんだったら、また今の意見は公聴会でも出てきたような意見があるわけですから、何かその辺に関して、取りまとめについていかがでしょう。

○富川副会長　まず、基本的なことから私の個人的な見解で、まだ事務局とも詰めていませんが、総合部会とこの審議会をもうちょっとフィードバックして、頻度をあと２回とか３回とかじゃなくて、もうちょっと議論を深めるためにやっていただければありがたいというふうに考えております。というのは、先ほど何度も申し上げるように、総合部会で基地問題について20年後にはないということを前提にしてもいいということで議論をしましたけど、そういう議論をするときに、洞察力ということを考えたときに、少なくとも現在置かれている安全保障問題に対する基本的な知識があって、日米関係とか日中関係がどういうふうに変化するかということを踏まえて、そのあとどうなるかということを延長線に考えて、もちろん10年、20年先を読むということは非常に厳しいことなんですけど、少なくとも現状の置かれている状況を判断して分析して提言できるようなことがないといけないと思うんですが、大変申しわけないんですが今の総合部会では、そういう議論がとてもしにくいんですね。

例えば、人口の問題についてもおっしゃるように、沖縄は2025年にピークになるという話があるんですが、個人的には大学の分析ではもっと早く来るのではないかといわれています。というのは、東京が相当人口を吸収し始めています。そういうことに対して、20年後にどうなるかというのは、もちろん難しいんですけど、今おっしゃったように世界の人口は増えている。沖縄はある意味でフロンティアになるわけですよね。アジアはどんどん増えているが、沖縄は減っている。その結節点でどういうふうな戦略が必要かということも、ただ出てきたデータを読んでその場で発言するのではなくて、何度も言うように、洞察力がないとなかなか分析がしにくい。事務方にはもうしわけないてすが、判断が困るものは、ここに出していただいて、もうちょっと頻度を高めていかないと、正直申し上げて、20年先を示す報告書を出すときに、私自身の力量を超えているところもあるんですけれども、もうちょっといろんな角度から本当に戦略的という発想もあったのですが、そういうことを議論しないと、今の総合部会では正直申し上げて厳しいと思います。

○平会長　今の運営について、事務局から何か。では、課長お願いいたします。

○事務局（黒島課長）　それでは、お答えいたします。

スケジュールのペーパーを付けてございますが、今お話があったように、９月をめどということでございますが、いろいろ県民意見の集約とかあるいは取りまとめ等で、これは一つのめどでありまして、そこは弾力的に考えたいというふうにいうふうに考えてございます。

それから、審議会あるいは総合部会の開設についても、必要ならば増やして開催していきたいというふうに考えてございます。

○平会長　いろんな提言は、それぞれのところで取りまとめたものだけでいいんですか。例えば鉄道の問題とか、宮古・八重山等は第一次産業をもっと盛んにしたいといういろんな意見が出ていますね。そういうのをただ羅列してそういうふうにすべきだということだけでいいんですか。

○事務局（黒島課長）　今、事務局のほうで、ビジョンの素案の裏付けとなります各ジャンルごとの資料を作成してございます。今、企画部のほうで進めておりますが、追々各部局の参加も得まして、専門的な観点からのチェックをお願いするということで、単なるチェックではなくて科学的なチェックもするということでございます。

○平会長　今は行政の立場としてそうやられると。富川先生が最初におっしゃったのは、シンクタンクだとか専門家がもっと入るべきじゃないかとかではないんですか。

○富川副会長　そういうことではないんです。確かに県民の未来は県民でつくるという発想は大事でして、まとめ方なんですけど、おっしゃるように県も母体となる資料の整理をなさっております。だけど、私はあれを見る限り、正直言ってこれまでの振計に私もかかわってきたんですが、基礎材料なんですよ。基礎材料、素材をつくっているのは結構なんだが、どう料理するかなんですよ。何度も言うように、これを20年朽ちないようなプライオリティを付けて何が重要かということも付けて、ある意味で沖縄の指針となるようなことについては、とても理論的で、とても洞察力がいることだと思うんだけど、その作業がもう何度も言って申しわけないんだけど、今の総合部会では私の力量も超えており、できないので、そこに適宜出して、非常に重要なことをここで議論するということも大事かなと思っています。

○平会長　饒波さんだったですか。もういいですか。

○饒波委員　また蒸し返すようで申しわけないんですけども、皆さんの発言を聞いてい

ると、どうしても各論に聞こえています。私も先ほどの離島問題も各論ということになってしまったんですけれども、僕が知っている範囲で一番強烈なビジョンは、「沖縄独立論」だと思います。それは荒唐無稽で私も反対ですけれども、それがどうして優れているかというと、沖縄県の制度をどれぐらい国からもらうというリアルな考えと、あとは沖縄の人の感情。このリアルなものと感情を１つにまとめるという点で、ビジョンとしては大変優れたものだと思います。だけど、もちろんそれは僕は反対なのでそれはやりませんけれども、それと似たものとして、私は2030年までに道州制、どういう形の道州制をとるかという、そういうふうなビジョンからすべてを引き出してくるというような、それがビジョンじゃないかなとか思いますけれども。何か各論に聞こえてしまって、そこまではわからないなということになってしまって、ちょっと細かいことでいくと事務方にお願いしますということになっちゃうので。

○平会長　道州制もいろいろ考え方はあると思います。やっぱりこれは沖縄だけでやるものではないからですけど。

小野さん、何かご発言ありますか。

○小野委員　沖縄大学の小野です。

私は専門が都市計画で住民参加はたくさんやってきました。計画づくりもやりましたし、実際の事業での住民参加もやってきました。住民参加が一番有効に働くのは、現状の認識なんですね。現状の課題が何か、それぞれ現場が抱えている問題は何かということを把握するときに、一番力を発揮すると思っています。これは非常に重要な作業で、たくさん回数を重ねて対話をされてきたということで、それはすごくいいと思うんですけれども、一方住民からビジョンが出てくることがほとんどないです。住民参加の過程でホップ・ステップ・ジャンプと３段階あるとしたら、一番最初の現状の認識、問題がどこにあるのか、今置かれている状況がどういうことなのかというところを把握するところで、100％市民の意見、住民の意見を聞くことが重要です。でもその次の課題の抽出の段階になると、かなり専門的な情報や技術が重要になってきます。最後にビジョンを出せる人というのはほとんどいません。住民のサイドでもいないし、専門家でもかなり難しい。だから、こういうふうにたくさん市民の意見を聞き、中高校生に意見を聞き、将来像を提示するというのはやはり難しいと思うんです。東さんもおっしゃいましたけど、20年後というのはすぐだと思ういます。この21世紀ビジョンをどういう形でまとめられるか、私もまだよくイメージができていません。かなり論点を絞り、いくつかの重点的に取り上げていくようなものを

示すものになるのか。あるいは従来のいろんな施策の上にあって、一応、すべてこの柱の下に入っていますよというものになるのか。その辺はぜひ私もわからないので教えていただければと思います。

○富川副会長　　まさに私が考えていることを小野先生に言ってもらったんですけれども、いろんな意見を吸収することはいいことだと思います。だけど、我々の責務というのは、そこからどういうふうにこれを引き出していって、どうまとめるかということで、例えば総合部会でも高校生の発表をコピーして配って、それはいいことです。でもそれで終わってしまうんですね。本当にそれでいいのかという疑問が湧くわけですよ。

それをどういうふうにまとめ上げて、理論化していって、本当のビジョンに落とし込む作業が我々の責務だと思うんですけど、そこの議論が今とてもやりにくい。

ですから、私はある意味で専門性が必要だと思うんです。私も最初申し上げたように、毎日苦悶していますけど、まとめなきゃいけない責務がありますのでやりますけど、それを頻度も含めて、ここに出して、本当に大所高所から揉んでいただいて、プライオリティも考えていただいて、それを少しここで議論する必要があるかなというふうに考えております。

先ほど道州制についても、ある意味で道州制も我々の議論のファクターの中に入っておりますが、この21世紀ビジョンと非常に重なる部分もあるわけですけど、現状はご存じのように沖縄県の道州制懇話会でも肝心の部分は２章までしか書いてなくて、３章から全然抜けてまだ案がないし、どういうふうな規模にするのか、どういう制度にするのか、上からの道州制が押し付けられた中で沖縄独自の考えを出せずにいるという状況もあります。ですからそれも含めて、議論ができるということになると、やっぱりもうちょっと広げて大所高所からの意見を聞いていかないと、まとめ上げるということを時間を逆算していつも考えるんですが、ぜひぜひ大所高所からやって、事務方には申しわけないんだけど、この頻度を多くしていただきたいというふうに思います。

○平会長　　はい、お願いします。

○宮城（光男）委員　　那覇商工会議所の専務理事をしております宮城と申しますが、皆さんご承知のとおり、企業というのは今大変な状況に置かれておりまして、日々どう生き抜いていくかということに皆さん苦労しているわけで、私はそういう中に今身を置いているわけですけれども、そういう中で今皆さんの議論を伺っておりますと、大体企業というのは半年とか長くてもせいぜい２年ぐらいの見通しで計画を立ててやるものですから、もう2

0年先30年先という話になりますと、たぶん企業ではほとんどやらないのではないかなというふうに考えます。

そういう意味では、私もビジョンをどうする、こうするという想像力というのはほとんどないといえるので、どうやってこの場に加われるのかなと今個人的には非常に疑問に思うわけですけれども、これまでのお話を伺っていて、少し私が感ずることは、産業だとか、経済だかいうものに対する議論というのがほとんどないのではないかなと。

例えば将来観光をどういうふうに描くのか、農業をどうするのかという議論がほとんどされていないのではないのかなという感じがいたします。個々の具体的な議論があって、その中で将来どうするかというものをやっぱり議論していかなくてはいけないんですけれども、この資料を読んでみましても、経済・産業とあって、豊かさとは何かというぐらいしか書いていないということで、それは富川先生がおっしゃるように、いろんなフォーラムをやったりとか、いろんな意見を聞いたりというのは、それはそれでいいんですけれども、どこかで系統立てたあらゆる分野を網羅したような、そういう議論をする場、議論できる方々、それを集めてまとめていくということをやらないと、富川先生がおっしゃるように、いくらそういう議論をしていてもいつまでも平行線でまとまらないものになるのではないかなということで、それをまとめられるような仕組みを根本的に考えていくべきじゃないかなというふうに思います。

○平会長　ありがとうございました。

桑江さんお願いします。

○桑江委員　私も一緒です。先ほどから富川先生がおっしゃっているのは、このままではまとめられないですよと。いろんな意見が出ていますよと。しかし、あと１、２回しかありませんねと。それは何回かもう少し延ばして、この審議会に提案をして、みなさんに意見を出させてまとめやすいような状況をつくってくださいと。言ってみれば増やしてくださいということなんですけど、事務局どうなんですか。これがなかったら、我々も責任がありますよ。このままでいきますと。もっと責任は富川先生ですよ。意見言いたい放題言ってまとめろと、まとめられますか今の状況で、無理ですよ。だから、責任は我々が持つと、皆さんも持ってください。もっと意見を絞っていっていかないと、これは本当に総花的にやって、20ぐらいのビジョンをやりました。富川先生だけじゃないですよ。我々の名前も出てきますよ。これでまとめられますか。もうちょっと絞った形で集中してやる。そのためにもう少し時間を割いてもいいじゃないんですか。そうじゃないと富川先生寝れ

ませんよ。はい、事務局お願いします。

○平会長　ちょっと事務局はあとにします。

○富川副会長　個人的な責任はもちろん私が取りますけど、正直言って私の考えは、これまで二次振計、三次振計をお手伝いをしてきまして、いろんな議論に参加して、相当議論を尽くしてたくさんの専門家が出てきて、それを積み上げて昇華させてきた記憶があるものですから、本当に正直言って、総合部会の方々もみんな専門家で優秀な方なんですけれども、今言った時間との考えでいくと、ありとあらゆる分野を総括していって、このビジョンをつくれといったときに、９月までと私は聞いているものですから、とてもいつも焦っておりまして、ついついこういう発言になってしまったのですが、ちょっと逆算してとても厳しいというのを事務局に何度も申し上げております。

○平会長　事務局の意見は最後の10分間で全部やってもらいますので。

山内さんお願いします。

○山内委員　私ども、本日の議論の焦点がよくつかめないままこういう時間に至っているんですけど、総合部会とこの会議との関係というものが今ひとつ飲み込めていないのですが、富川先生がまとめてこられた資料３のマトリックスを見ただけでも、私は福祉関係の者ですが、非常にいろんな角度からいっぱい話をさせてもらいたいとは思うんです。でも、本日はそういう場でもなくて、各論の場でもないのですが、総合部会に対してこういう議論はどうなっているんですかというふうなことを、私としては申し上げたいんですよね。できればペーパーで出してもいいと思っています。こういうところについて、こういう視点も大切じゃないですかという素材の提供をしたいと思いますし、できれば議論もどのような議論が進められているのか、本日は簡略化された部分しか出てないので、そういうところもよくわからないんですけど、それに加わることはちょっと難しいのかもしれませんが、こちらとしてできるだけの提起をしていきたいと思いますし、これだけの委員の中にも専門家の方々がいらっしゃいますから、おそらく皆さん同じようにそういうやり取りもしたいなという気持ちもあるかもしれません。こちらからそういう投げかけができるのかどうかということも、あとでご検討いただければなというふうに思いました。以上です。

○平会長　ありがとうございます。

玉栄さん、お願いします。

○玉栄委員　こんにちは。私も実は昨年、「私がつくる2030年のおきなわ」というのに一

般公募して、地球温暖化防止とか、環境ビジネスの観点に特化して私は応募して選ばれたわけです。ですから、各論という意味からすると、広く浅い専門家だと思っているわけですけど、先ほどの仲本さんのお話とか、仲村さんのお話というのは、相通ずるところがあるんですけれども、ここで私は各論を申し上げるつもりはありませんで、スケジュールの表を見て少し提言をさせていただきたいわけです。例えば今３月の末できょうの私どもの開催があると。「構成案の作成」とか、下の「県民の議論を広く」というのは、もうある程度取ったはずなんですね。取って大切なものは県の各部局が４月の下旬から「ビジョン素案の作成をする」となっているわけですね。それと大変ご苦労がいります富川先生の総合部会との連携がどうあったらそのとおりうまくいくのだろうかというところに強く私は関心を持っているわけです。

ですから「私がつくる2030年のおきなわ」というのを広く沖縄の担当部局はそれぞれ持っておられるはずなんですね。今現在上がってきた状態のソフト的なこと、ハード的な内容を踏まえて、我が部局がつくる2030年のエキスみたいなことを各部局にきっちり投げて、その代表をこの皆さんで総合部会とやり合うということじゃないと、県の施策との遊離が出てくるという気がしますので、その辺のところにどれぐらい時間を割くかと。やっぱり月に２、３回ぐらい集まって、たたき合わせてやっていくんだというぐらいでないといけないと思います。

一例を申し上げます。例えば、今沖縄県では「沖縄県エネルギービジョン」というのが見直されて検討委員会が行われています。観光商工部の産業政策課が窓口です。2009年をベースにして、今から10年先をつくろうとしているわけです。つくるのが、４月以降庁内委員会が開かれて、そして９月以降にはまとめるときているわけです。仲本さんがおっしゃったような内容とか、仲村さんがおっしゃっている内容を10年先のものに入れきれなければいけないじゃないですか。そういう10年計画的な県の部局がまとめようとしているのが、どういうビジョンが左側にマトリックスとしてあるのか、そして右側に先ほどのマトリックスで整理していくという10年ぐらいの計画・ビジョンというのが、各部局にどんなのがあって、そのエキスをこの中に入れることができるだろうかという観点で少し整理していただければ、我々もやりがいもあるしぞっこん突っ込みたいとも思っていますので、よろしくお願いいたします。

○平会長　　最後の10分間で事務局の県のほうのお考えを聞きますけれども、例えば、私は個人的に２月の初めに、与那国島の人たちと会ったことがあります。観光客が大勢来て、

観光もいい産業ではあるんですけれど、あそこではお野菜ができないと。そうすると全部那覇や石垣から野菜を買ってくる。それで準備ができるのですが、台風等で観光客が来ないと今度は全部損害になるというので、島としてぜひ次の世代に、風速100ｍでも耐えられるような野菜栽培施設をつくりたいというふうなことであります。実を言うと、これもまた２週間ほど前に琉大でシンポジウムが行われましたが、「植物工場」という考え方が今あります。それは何のことはない、建物の中でつくるということだけなんですが、私の住んでいる中城村でも個人的に、元々が屋敷だったから塀があるわけですが、ネットで風を防ぐ。そういう中で十分やれます。そうすると、さっきの話で建物の人工の光でやるのではなくて、普通の日は外でやりながら、そういうときに避難させるとかということもできると思います。でも、非常にわかりやすいのは、「風速100ｍでも野菜がつくれる」というふうな観点だと思うんですが、東さんがおっしゃったぜひ糸満から名護まで鉄道を引けというんでしたら鉄道を引くというのは大きな県の目標になってわかりやすいし、鉄道のエネルギーとして言えば別に火力発電ではなくて、もっと代替新エネルギーなり、あるいは新しいそういうものも出て来るのではないかと思うんですけど。私は実は海洋学者なものですから、何でも物がないと非常にわかりにくくて、そういうアイディアのほうは難しいんですが、そういう観点も含めてやっぱりわかりやすいビジョンがいいんじゃないですかね。

委員の皆さんいかがでしょう。今後何かもっとわかりやすいような形でいくつかのビジョンが出てきて、それに20年後にはどう到達するというのもあっていいように思うんですけど、いかがでしょうか。

私の今のおしゃべりは気にしないでいいんですけど。まだご発言でない委員の方、すみません、私の不手際で。はい、お願いいたします。

○砂川委員　富川先生が大変苦労しているということを、つくづく今までの話を聞いてわかっておりますが、実は富川先生のペーパーがあるわけでありますが、私自身もビジョンにどの範囲のものをやろうとしているのかがわかりにくくて、各論みたいなことをおっしゃる方もいるし、そうでないものもある。我々が経営をする場合、ビジョンとは何年か先、10年なら10年先のあるべき姿、形を示す。それに基づいて、この何年間には戦略・戦術というのがあって、計画・実行というのが並んでくるんですね。そうなりますと、富川先生がここに書いてあるように、21世紀ビジョンというところに、基本的な構想、基本計画だと。基本構想の中に10年間の計画、あるいはその10年間を目指すために単年度の計画が出てくるというようなことが、経営的には普通取られている手法で、私もそれをイメー

ジしているんです。

ただ基本構想の中には、いろんな分野ごとにしなくてはいけないということを考えた場合に、きょう出されている基本構想の構成案というものを、本当に早目に固めないと、これに何をもっていくのかというのが、たぶん議論もされないし、いくら時間をかけてもきょうのような議論になってしまうということもありますし、さらにまたきょう仲本委員が出されたものは、特に私は農協の専務をしている立場でございまして、本当にあのキーワードはきわめて重要だと思っております。そして、特に農村・漁村・あるいは離島となりますと、これだけの島嶼県ですから、160の離島があって110の有人島があって、そこに大きな学校があり、人々が住んでいると。そこには基本的に農業がないと住めません。学校がなくなる、さらには無人島になると、県土・国土という領土を守っているという部分、大きな視点として捉えていただければなと思っています。また、農業は先ほど来、仲村委員からもあったように、やっぱり環境問題にも大きく貢献する、CO2の削減の問題にもですね。そうしますと、やっぱり仲本さんが提案していますような部分も早目にこれに落とし込んでしっかりしたビジョンをつくっていただきたい。いずれにしても、ビジョンをどういうコンセプトでやっていくのかが全然見えなくて、せっかく出されているんだけど、ビジョンの構成の議論が全部されているとは思いますけれども、いずれにしろしっかりとしたものを先ほど来桑江さんも言っていたようなこと、あるいは宮城さんも言っていたようなことを踏まえて、事務局にはしっかりしたものをやっていただきたいなと思っています。

○平会長　もう時間がなくなって、あと３人だけ田仲委員と野原委員と最後に富川先生のほうからまとめて、それからあと県のほうにお返しします。田仲委員いかがでしょう。

○田仲委員　私も皆さんの意見をお伺いして、富川先生がおっしゃっていたように、どんな形でまとめていくかというのが本当に重要なんだなというふうに思っているんですけれども、先ほど山内委員がおっしゃったように、総合部会とそれから審議会の関係というかやり取りの部分が見えなくて、自分がここで何を言えばいいのか、何をすればいいのかわからないままきょう一日座っていた部分があるんですけど、資料３の重点課題の分野がたくさんあって、今総合部会の進め方がわからないままちょっと質問なんですけど、これ１個1個に部会があるわけではなくて、全部まとめて話を進めているんですよね。何かすごく範囲が広くて、それだけ聞いても１個のビジョンができ上がっていくのかなというのがわからないというか、小さい部会をつくって、その中で専門家の方たちが話をするという機会が必要なのかなというふうに思ったりもしたんですが、今進んでいるのでそれはどう

しようもないのかもしれないんですけど、そんな形で私もすごく微力なんですけれども、残された期間しっかり勉強して意見が言えるようになろうというふうに思っています。

○平会長　ありがとうございます。それでは、野原委員いかがですか、まとめで。

○野原委員　私は今までもいろいろと県と宮古島のほ場整備の件で何度もやり合ってきたんですけれども、宮古島でもそうなんですけれども、公共事業に頼るという部分が非常に強くて、またそれを農家の側とか建築業者とかも頼っている部分も大きいんですけれども、それ以上に県も非常に頼っている。

今、私この21世紀ビジョンを一生懸命やらせていただきたいと強く思ったのは、県がもし今のこの姿勢というのを変えることが可能であるならば、私たちが提案して、提言していくことで、沖縄本島で言うならば泡瀬干潟の問題なんかもありますけれども、やっぱり今まで県が持ってきた方向性を、私たちが提案していることで、もし少しでも変わることができるならば、本当に県民が望んでいる沖縄県のあり方、20年後か50年後か100年後かということは別として、それを本当に県にやる気があるのかどうかというのが、私は今までの経験からして非常に疑問があるんですね。

きょうも、そういうことについてもうちょっとはっきりとしたその姿勢を見せていただいて、じゃこういうふうに21世紀ビジョンとして決めるのであれば、きょうも方向性を変える姿勢があるんだということがもしわかれば、もう少し皆さん、きょうお見えの方も、今のようにどこで21世紀ビジョンをやっているのかなということではなくて、もうちょっと積極的にいろんなことで意見も出てくるでしょうし、もっと本気で決めようという姿勢が見えてくるんじゃないかなと私は思います。ぜひその辺を、もうちょっと県の方たちとも話をしていきたいなというふうに思っております。

○平会長　ありがとうございます。

それでは富川先生お願いします。

○富川副会長　きょうは私のほうで総合部会の課題だけ前面に出てきた感じがして申しわけないんですが、それはひとえにかなり論客をもらいまして、議論も相当やっておりまして、総合部会でなかなかまとめ切れないというのは、私のまとめる力がないということでご理解をいただきたいと思います。

ただ、このビジョンにこだわっている視点というのは、あと５年すると振計もなくなるかもしれない。この次の10年というのは、今の日本国の現状から鑑みて延長もない可能性も高いわけです。

そういうときに、何が未来を照らす道しるべになるかというと、私はこの21世紀ビジョンだと思っているんですね。ですから、そういう議論をし尽くさなければいけないと。だから、時間的な制限の中に正直申し上げて生半可なものをここにあげるのも非常に忸怩たるものがあるものですから、ついついこういう発言をしてしまいましたけれども、やはり後世に悔いを残さないような21世紀のビジョンをつくりたいというのはどの委員も一緒だと思いますので、今後、総合部会に帰りましても、時間の制約もありますけど、その課題、マトリックスにのっとって、議論を進化させていって余裕のある従来議論はできるだけ削減していって、集中審議をして、極力まとめ上げていきたいというふうに思います。

きょうは総合部会の課題だけ出して申しわけなかったんですが、一生懸命やってまとめ上げていくという気持ちには変わりはありませんので、改めて申し上げておきたいと思います。

○平会長　ありがとうございます。

阿波連さんいかがですか。

○阿波連委員　先生方のご意見と全く一緒なんですが、今日私も来て、この審議会と総合部会との兼ね合いだとか、きょうは何を話していいのかなと、聞いて帰るだけかと。審議会とはなんぞやということがありまして、私は沖縄県の体育協会の代表としてきているものですから、特に我々がしゃべることができるものは、健康問題だとか、人材の育成についてのことなんですが、こう言ったことも僕らが意見言えるかなと。ほかについては専門の先生方がいらっしゃいますので、私は委員として、これからのスポーツの問題だとか健康に関する問題、あるいは沖縄の食生活の問題もありますよね。そういった分野もこういう席上で言っていいのか、総合部会でも出してもらったら、僕も意見を言いやすいのですが、きょうの内容からするとそのことについて私どもはあまり意見を言うのがなくて。そういう分野も含めて総合部会でも検討してもらえたら私は体育協会を代表してきているものですから意見が言えるかなと考えておりますので、ぜひこの辺もよろしくお願いしたいと思います。

○平会長　ありがとうございます。

それでは、県のほうでお約束の10分はなくなって１分しかないんですけど、お願いします。

○事務局（黒島課長）　それでは、このスケジュールが、当初スタートした時点で終点を設定して９月ということでやってございましたが、作業の進行によってはそれを弾力的に

考えております。今お話がありましたように、部会、それから審議会の頻度をもう少し増やす。それからフィードバックの仕方ですね。それも含めて、富川部会長とは相談してやっていきたいと思います。

それから、審議会の委員の先生方には、この会議の場だけじゃなくて、随時もしご意見がございましたら、メールあるいはほかの手段でも結構でございますが、事務局のほうに提供していただければと思います。

それと、このビジョンでございますが、20年後の沖縄の姿ということで、当初県民の皆さんのできる、できないというのは別にしまして、こうありたいというものに重きをおいて意見を募るということでスタートをいたしました。ですから、あまり専門的に県庁の各部局でやっているいろんなビジョンがありますけれども、それを前面に最初から出すのはいかがなものかなということでございまして、県民の意見も募りながら、それから現在の専門的な観点からのビジョンと突合しながらまとめていくのかなという感じはしてございます。そういうことでございますので、今年度これとは別に振興計画あるいは沖振法の総点検もしてございます。それについても先生方のご意見あるいはご審議をお願いすることになると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

４．閉会

○平会長　　それでは、これで閉会してよろしいですか。

どうもありがとうございました。